

令和5年度 墨田区立八広小学校 経営報告書

校長名 勝 田 光 徳

学 校 目 標	やさしい心 ひろがる学び のびのび育つ やひろの子
目 指 す 学 校 像	(1)子供が学校に行くことが楽しいと感じ、生きがいのある学校にする (2)教職員が子供の良さや頑張りを認め、協働して活動する学校にする (3)保護者に開いた、親しみのある学校にする (4)地域に根ざした学校にする
目 指 す 子 供 像	日本国憲法、教育基本法に則り全体の奉仕者としての自覚に立ち、人間の生命と心を大切に育む教育の推進に尽力する。「結果はともかく努力すること自体に価値がある」という価値観を身に付けさせ、将来、社会に貢献できる子供を育てる。
目 指 す 教 師 像	①学習や生活の中で、子供たちの良さや頑張りを常に認める教師 ・子供ができるようになると頑張っていることを認め、できたことを褒める。 ・子供が良い方向に自分を変えようとしている態度を応援する。 ②教職員が学び合い、専門性や持ち味を生かしながら成果を出していく教師 ・主幹・主任等の教員が中心となり各組織がこれまで以上に機能するよう努める。 ・学校行事、授業研究においては主に学年を単位として取り組み、知恵の出し合い、提案、指導技術の交流など、教職員相互が努力する。

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価 について	改善策に ついて
		取組指標	成果指標			
各教科等指導	確かな学力を身に付けさせるため、分かりやすい授業や朝学習等で組織的、計画的に取り組む【学力向上】 【具体的方策①】授業(ねらい、教材、活動、指導方法、指導形態、評価と指導)を充実させ、「授業観察の視点(授業観察シート)」をもとに授業を行う。	4	4	○教員アンケートで「分かりやすい授業を『授業観察の視点』をもとに工夫して行っている」と肯定的に回答した教員の割合が100%、児童アンケートで「先生の授業は分かりやすい」と肯定的に回答した児童の割合は94.7%であり、取組指標、成果指標ともに達成状況は4であり、取組が児童の成果として表れた。 ・今後も、授業(ねらい、教材、活動、指導方法、指導形態、評価と指導)を充実させ、児童に学習内容が確実に身に付くように指導していく。	A	A

様式 4

等	【具体的方策②】「読み、書き、計算」など、いわゆる「見える学力」の定着のため、授業や朝学習、家庭学習等で習熟を図る。	4	4	○教員アンケートで「授業や朝の学習など基礎学力の定着に向けた指導を行っている」と肯定的に回答した教員の割合が96.3%、区学力調査（後期）で国語、社会、算数、理科、英語の全観点のうち全国平均以上の観点数が、90.9%（66 観点のうち 60 観点が全国平均以上）となり、前期の76.4%（51 観点のうち 39 観点が全国平均以上）より、学力が大きく向上した。また、家庭学習取組強化週間を年3回実施した結果、家庭学習の提出率は96.4%となり成果として表れた。 ・今後も「読み、書き、計算」など、いわゆる「見える学力」の定着のため、授業や朝学習、家庭学習等で習熟を図っていく。	A	A
	【具体的方策③】一人1台のタブレット端末やICT機器を有効に活用し、子供が「わかった」「できた」と達成感を味わえる授業づくりに努める。	4	4	○教員アンケートで「ICT機器（タブレット端末、プロジェクターなど）を積極的に活用している」と肯定的に回答した教員の割合が、93.1%、児童アンケートで「ICT機器（タブレット端末、プロジェクターなど）を使った授業は分かりやすい」と肯定的に回答した児童の割合が93.6%で、取組指標、成果指標ともに達成した。 ・今後も、一人1台のタブレット端末やICT機器を有効に活用し、子供が「わかった」「できた」と達成感を味わえる授業づくりに努める。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	学力調査結果では学力が概ね向上傾向にあり大変素晴らしい。特に後期に行った学力調査では、子供たちの学力が伸びている結果が出ている。全学年・全観点、全国平均以上を目指すなど、目標を明確に定めて取り組んでいるのは評価できる。先生方のご指導に感謝する。引き続き、朝学習や家庭学習の習慣（宿題）を身に付けさせるなど基礎や基本の学力の定着に向けて取り組んでほしい。また、学力とともに体力向上についても力を入れてほしい。				

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	一人一人の子供をかけがえない存在として尊重し、お互いを認め合える関係や偏見や差別のない人間関係の構築を目指す。【人権教育】 【具体的方策①】いじめの未然防止や早期発見・解決に向けた組織的な取組を人権教育の視点から行う。	4	4	○教員アンケートで「いじめをさせない、許さないなど人権を尊重する姿勢で指導している」と肯定的に回答した教員の割合が、100%（全教員が実施した）、児童アンケートで「先生はいじめをさせない、許さないことを指導している」と肯定的に回答した児童の割合が、96.5%で、取組指標・成果指標ともに目標値を達成した。 ・今後もいじめの未然防止や早期発見・解決に向けた組織的な取組を人権教育の視点から行う。	A	A
	【具体的方策②】基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。	3	4	○教員アンケートで「子供に思いやりの心や規範意識などを育てるよう指導している」と肯定的に回答した教員の割合が、96.5%、児童アンケートで「先生は思いやりの心や約束、ルールを守ることが大切だと指導している」と肯定的に回答した児童の割合が、96.7%であり、取組指標が3、成果指標が4とほぼ達成した。 ・今後とも、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいく。	A	A

様式 4

<p>挨拶が学校や地域に響き渡り挨拶があふれる学校や地域にする。 【具体的方策】日頃の挨拶指導、年3回以上挨拶運動等の取組を計画的・徹底的・継続的に取り組む。</p>	4	3	<p>○教員が児童や保護者、地域に「すすんであいさつや返事ができるよう指導し、自分もしている」と肯定的に回答した教員の割合が100%（全教員が実施している）、児童アンケートで「すすんであいさつや返事ができる」と肯定的に回答した児童の割合が86.9%であり、取組指標は4、成果指標は3であった。 ・日頃の挨拶指導、年3回以上挨拶運動等の取組を計画的・徹底的・継続的に取り組んでいく。</p>	B	B
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<p>挨拶については、昨年度より全校で取り組んだ結果、校内や地域で明るく元気な挨拶ができていようになったのは大きな成果である。引き続き、範例・徹底・継続できるよう挨拶運動等に取り組むとともに、交通安全、不審者対応、SNSのルール、薬物乱用防止など生活指導上の課題については指導し、児童の健全育成を推進してほしい。PTAや地域もできる限りの協力はしていく。</p>				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	<p>経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。 【具体的方策①】教職員の危機管理意識を高め、子供たちが安心・安全に過ごせる学校環境を整える。</p>	4	3	<p>○教員アンケートで「安全対策（門の施錠やつり下げ名札の着用、交通安全教室など）を適切に行っている」と肯定的に回答した教員の割合が100%（全教員が実施している）、保護者アンケートで「安全対策（門の施錠やつり下げ名札の着用、交通安全教室など）を適切に行っている」と肯定的に回答した保護者の割合が82.9%で、取組指標は4、成果指標は3であった。 ・今後とも教職員の危機管理意識を高め、子供たちが安心・安全に過ごせる学校環境を整えていく。</p>	A	B
	<p>【具体的方策②】CS（コミュニティスクール委員会）や保護者会等で学校経営方針等を説明し、地域・保護者と協力して児童の育成を図る。</p>	4	4	<p>○学校経営報告書における学校関係者評価の自己評価で全17項目のうち達成状況のA評価が10項目以上であり、具体的な改善策が記載されていた。学校経営報告書における学校関係者評価の全34項目（自己評価・改善策）でのA評価の数が15項目以上であった。取組指標・成果指標ともに達成した。 ・CS（コミュニティスクール委員会）や保護者会等で学校経営方針等を説明し、地域・保護者と協力して児童の育成を図る。</p>	A	B
	<p>【具体的方策③】校内環境を整備し、児童が落ち着いて学習に取り組み、安心・安全に生活できるようにする。</p>	4	4	<p>○教員アンケートで「校内の清掃や環境整備、美化に積極的に取り組むよう指導し、学習環境を整えている」と肯定的に回答し、教室環境が整っている教員の割合が93.1%、保護者アンケートで「校内の清掃や環境整備や美化に積極的に取り組んでいる」と肯定的に回答した保護者の割合が85.2%であり、取組指標・成果指標ともに達成した。 ・校内環境を整備し、児童が落ち着いて学習に取り組み、安心・安全に生活できるようにする。</p>	A	B

様式 4

学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	CSのモデル校として、学校運営協議会を発足し、新たな体制で進めることができたことは良かった。校長の学校経営方針が、教職員に浸透して、学校の課題に対して全校体制で取り組んでいることが感じられる。学力調査の結果をもとに、児童の実態を把握し、学年に応じて必要な手立てを講じて、取り組んでいる。今後、校舎の建替え工事がある。安全面を最優先した学校運営を行ってほしい。
---	---

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・ 改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、保護者・地域と協働・連携し教育活動の充実に努める。 【具体的方策①】学校ホームページや学校だより等を充実させ、学校公開、保護者会等を通じて積極的に教育活動の情報発信をする。	4	3	○教員アンケートで「行事や学校公開、ホームページなどで学校生活の様子が分かるようにしている」と肯定的に回答した教員の割合が96.5%、保護者アンケートで「行事や学校公開、ホームページなどで学校生活の様子が分かるようにしている」と肯定的に回答した保護者の割合が88.6%であり、取組指標は4、成果指標は3であった。 ・学校ホームページや学校だより等を充実させ、学校公開、保護者会等を通じて積極的に教育活動の情報発信をしていく。	A	B
	【具体的方策②】PTA・地域の行事やイベントに参加することにより、学校と保護者、地域が協力して子供たちを育てる。	4	4	○教員アンケートで「PTAや地域の行事、ボランティアなどの活動に協力している」と肯定的に回答した教員の割合が93.1%、保護者アンケートで「学校はPTAや地域の行事、ボランティアなどの活動に協力している」と肯定的に回答した割合が80.1%であり、取組指標・成果指標ともに達成した。	B	B
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	毎月の学校だよりには、校長の教育方針や学校行事等の内容が掲載され学校の教育方針及び教育活動がよく理解できる。学校のホームページはほぼ毎日更新されているが、学校評価を見ると、保護者に周知されていないのが残念である。もっと、先生方の努力や頑張り、学校の取組をアピールしてもよいのではないかと感じる。				

2 令和5年度学校評価のまとめ

各学年の学力の状況については、区学力調査結果を見ると概ね各学年・各教科の観点別の結果は向上している。特に、学校独自に行った後期の学力調査では、成果が顕著に表れている。教員は、日々の授業改善に努め、児童がこれまでの学習を生かして自力解決する能力を高めさせていく必要がある。また、「振り返りシート」などの教材や放課後補充教室などを戸別指導を行い基礎・基本の学力の定着を図るとともに、特に下位層の児童の学力を引き上げる。「分かる」「できる」喜びをどの児童にも体験させ、全学年・各教科の観点別平均正答率を全国平均以上とすることを目標として取り組んでいく。

生活指導面では「あいさつがあふれる学校」を目指し、「自分から先に挨拶」を目標に「挨拶運動」等に全校で取り組み、成果をあげた。次年度以降も、継続して元気に挨拶ができるよう、児童の意識を高める取り組みを行っていく。また、いじめ防止の指導、SNS 学校ルールの指導などは、継続していく必要がある。

様式 4

ある。不登校児童も年々増加傾向にある。不登校の早期発見・対応と家庭へのスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を活用したさらなる支援を行っていく。

学校の管理運営については、校務分掌の再編成を行い、「経営支援部」を設置した。20周年行事は経営支援部を中心に行い、PTA、地域との連携等成果を上げた。次年度も円滑に組織的な運営を行い、迅速かつ適切に対応できるようにしていく。

家庭・地域連携については、次年度は学校公開期間を年3回（トータル1週間程度）設定し授業を参観していただくとともに、学校行事（運動会、展覧会等）も積極的に公開するなど、開かれた学校づくりに努める。ホームページ更新を毎日行うなど、学校としての教育情報発信の努力が見られたという評価をいただいた。今後とも学校評価や保護者アンケート等を実施し、保護者・地域の声に耳を傾け、学校、地域、保護者が一体となった学校づくりを目指していく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立八広小学校 校長 勝 田 光 徳 公印